☆★矢野目小学校教育目標★☆互いを大切にし、 笑顔で協働する子ども ★☆★も
★☆自ら学び、深く考えて行動する子ども☆★ 心と体を鍛え、 命を大切にする子ど

令和6年度矢野目小学校 学校だより

みんなの広場 2

笑顔が あふれ、明日もまた 来たく なる 学校

2024.10.8 発行 No.71 文責 目 黒 満

連日の雨模様と秋本番を感じさせる気温の中、登校後に体調を崩す人が毎日何名かいます。急な気温変化で体がついていかない状態かもしれません。体調が悪い時は早めの休養を。また喉や鼻、頭痛等症状がある時は早めに医療機関の受診をお願いします。
本日の諸感染は３名、全体的な増加傾向は見られません。

家庭と学校ががっちり手を繋ぐ２年目に

新刊図書紹介「おさほう えほん」

夏休み明けの交通指導の記録の中に、通学班の様子について「皆、きちんとあいさつしてくれました」という声が多い一方で、「疲れもあるようで、あいさつの声が少し小さいような気もしました」とか、「元気なあいさつをしてくれる子が数名いて気持ちが良かったです」「あいさつしない子どもの方が多かったのが残念です」といった報告が見られました。

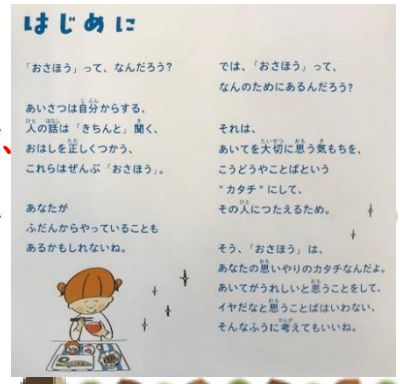
正門や昇降口の周辺、校舎内では、児童の元気なあいさつの声が響いているので、少し意外な感じがします。各家庭で朝起きた時、出かける時に家族へ、集合場所や通学路でお会いする地域や保護者の方へ等、それぞれの場面での子どもたち一人一人のあいさつはどうなのでしょうか？

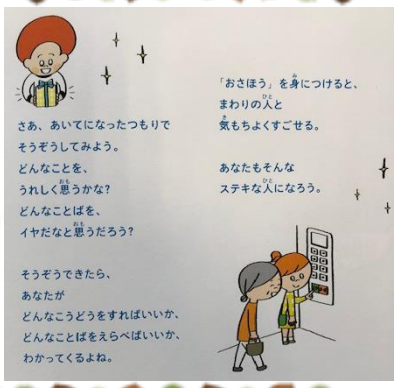
子どもたちにも子どもなりの「公私」の区別があると思います。家庭から学校までの 15～30 分くらいの時間で、意識はしていなくても公私の切り替えをしている子が多いように思います。

また、朝のあいさつ一つにしても、起きた時に家族に、集合場所で友だちに、子どもを守る会や交通指導の保護者に、学校で先生に言う場面等、それぞれのあいさつを使い分けているのではないでしょうか？

いずれにしても、あいさつはその人の人柄や育ちが反映され、あいさつされた側は、そのあいさつや態度などで無意識のうちに好感を持ったり、逆に気分や雰囲気を悪くしたりします。あいさつは人との関係づくりの窓と考え、学校でもあいさつをはじめとした礼儀作法について指導をしています。でも一番肝心なのは、親や家族が普段からどのようなあいさつや礼儀作法をしているかです。子どもたちはそれぞれの家庭で「大人のモデル像」として親・家族を見ています。もちろん、私たち教師もその次のモデルになっていますので気を引き締めて子どもたちの前に立つようにしています。

あいさつも礼儀作法の一つです。あいさつや礼儀作法について、子どもたちと一緒に考えるのにぴったりな本が新刊図書（令和5年度卒業生寄贈図書）の一冊にありました。ほんの一部ですが紹介します。





今回紹介したのは、もくじの No.1・No.2です。この他に「はずかしい気もちにさせない」とか、「思いやりのひと言をそえる」、「人のステキなところをみつける」、「えがおでいる」など、全部で27の項目から絵本が構成されています。

読んでみると、大人もハッとすることが書かれています。図書館で貸出していますので、ぜひ、ご家族みんなで読んでみて下さい。